



5月1日、大平よしのぶ元衆議院議員は、第97回広島県中央メーデーに参加し、日本共産党を代表して連帯のあいさつを行いました。



中東情勢による資材不足や高騰深刻 —緊急支援を 広島・岡山

広島北民商

4月21日、大平氏は広島県議とともに業者と開業医の団体を訪問。「仕事にならない。大打撃だ」(建設業)、「使い捨て手袋などが品薄・価格高騰で深刻な経営の危機」(開業医団体)など、苦境が語られました。24日には、岡山県医療労働組合連合会と懇談。「価格高騰で点滴するほど病院は赤字になる」と厳しい現場の実態が示されました。



大平氏は「政府による資材確保、直接支援が急務。なによりイラン攻撃、戦争終結へ日本の役割をはたすよう引き続き国に求めています」と語りました。



岡山医労連

「法規制など国が乗り出す段階だ」 —PFAS・産廃処分場問題で政府要請

4月27日、大平氏は、広島県議団や地元議員、住民団体とともに、東広島市をはじめ県内で相次いで検出されている高濃度のPFAS(有機フッ素化合物)問題や有害物質が検出された三原市本郷の安定型産廃処分場の問題について、環境省へ要請。日本共産党の仁比そうへい参院議員と社民党の福島みずほ、ラサール石井両議員も同席。



大平氏は、「今の国のPFAS対応では、自治体も発生源の特定もできず、対策も進まない」「産廃業者は処分を受けるが改善せず、被害は広がるばかり」と指摘。「住民の不安にこたえて法規制など国が乗り出す段階だ」と重ねて求めました。

トピックス

「資本論カフェ」「赤本学習会」が好評

各地で資本論学習会がおこなわれています。鳥取県西部地区、広島の民青同盟などでの『赤本』を読む会に大平氏もアドバイザーとして参加。党内外の幅広い世代と一緒に学び、「みんなで学べておもしろい」と大変好評です。

